

平成 24 年度第 6 回恵那市市民評価委員会

議事録（要約版）

日時：平成 24 年 9 月 18 日（火）

午後 1 時 30 分

場所：恵那市役所北会議棟大会議室

1 委員長あいさつ

2 会議の公開・会議録の公表について（確認）

3 議事

評価結果のとりまとめ（後半 6 事業）

- ・恵那CATV管理運営事業
- ・日本大正村施設整備事業
- ・食育の推進
- ・サンホールくしはら自主事業、管理運営経費
- ・NPO支援・育成事業
- ・放送運営事業

4 その他

出席者（敬称略）

【委員】市川美彦、柴英子、田口譲、柘植麻美、平野未帆、牧野香、宮地政臣、山田基

【オブザーバー】竹内泰夫

【事務局】企画課長 千藤秀明、企画課係長 福平栄久、企画課総括主査 和田信之

欠席者 【委員】大橋由美

1 委員長あいさつ

■委員長 9月に入り涼しくなった。後半の6事業の評価をする。最後まで要領よく進めたいが発言をしないようにということではない。最後までよろしくお願いします。

2 会議の公開・会議録の公表について（確認）

■事務局 会議の公開、会議録の公表については従来通りお願いしたい。

3 議事

<恵那CATV管理運営事業>

■委員長 中身に入る前に、各委員から出された意見のほかに、担当課に質問があれば出してほしい。

■委員 事務事業成果表の中で、「加入率が問題となるが100%加入で考えるとさらに有効である」という判断だが、全戸加入となると全戸はいくつで、今は何割加入か。

■担当課 恵那市内の全戸加入を考えている。4月1日現在19,270世帯。

■委員 それが全部入れば100%か。

■担当課 はい。現在10,408世帯加入しており全体の54%。

■委員 全戸加入は大変だができるのか。

■担当課 音声告知器も入れて全戸加入により市民の皆様に公平に情報が提供できる。100%加入を目指している。

■委員 田舎はケーブルしかなく加入しているが、大井、長島地区はNTTの機械が整備されているのでなかなか入らないのではないか。効率のいい大井、長島地区に接続が集中すれば一気に80、90%の加入率になる。54%止まりという原因をどう分析しているか。

■担当課 NTTなどもあり、また大井、長島は保古山の地上デジタル中継局の電波を受けている。その関係でインターネットは入らないがテレビは見えるということで、大井、長島地区は低くなっている。

■オブザーバー 加入していない46%の人は市民向け放送を聞けないということか。

■担当課 情報は音声告知器を全戸に無料設置し91.5%加入している。残りの8.5%は民間のアパートの持ち主の設置同意が得られなくて未加入になっている。

■オブザーバー 音声告知器は音の情報、CATVは音プラス映像だ。音だけということは防災には告知器で十分だが、地域のお祭りの番組を見たいときには加入していない人は見られないということか。

■担当課 はい。音声告知事業は、市で独自の光ケーブルを引っ張っていて、音声告知器までは市の事業で付く。テレビ映像とインターネット通信は軒先まで来ているので、加入していただければそれぞれを宅内に流す。音声告知器で警報の情報は流す。ただし、それは音を聞くだけで、映像はケーブルテレビに加入しないと見られない。

■委員長 防災放送は従来から屋外でやっていたが、恵那市のような山間地域は反響して内容が分からないということで各戸に設置して屋内でも内容が分かるようにした。それが音声告知器で92%の加入だ。それはケーブルテレビの内容は見られない。

次に各委員から評価のコメントをいただき、質疑を行う。

■委員 音声告知器は100%になるのがいいと思うが、ケーブルテレビは大井、長島以外の加入率が高いが、大井と長島だけが20%台。民間のネットの配線があり民間は顧客を逃したくない。調べてきたが、今光テレビというのがある。ネット回線でテレビが見られる。これでめざそう値がケーブルテレビ加入世帯数100%というのは、現実的に無理だと思う。目標は大事だが、あまりにも無理な数値を目標に挙げるのもどうか。今日テレビを見ていたら、フレッツ光ライト月額利用料2310円。よく見るとこれにプロバイダ料がかかり、結局アミックスが一番安いと思うが、こういうのがテレビで流れると、民間ケーブルを引いているところはアミックスで入るということはあまり考えないと思う。

アミックスは収益を上げてきているので、保守管理はアミックスでもらうように事業費をアミックスに移していくのがいいかと思う。個人的には民間の自主番組をしてくれる団体が8月に発足したということで期待するし市民として協力したい。

■委員 名古屋から明智に引っ越してきたとき、ネット回線がほしくていろいろ調べた。アミックスにも電話したが詳細を教えてもらえなかった。担当者によるのかもしれないが知らない者でも分かるように教えてほしいと思う。

■委員 100%加入は無理。必要性を感じなければこれ以上の加入は無理。例えばどこかへ撮影に行かれたときにこれが映るといふ宣伝をしているのか。

■担当課 映る方については後で報告している。元気っ子というのは1年間保育園、幼稚園が決まっているのでそちらのケアはできる。番組表も広報紙の裏面やマイカに載っている。EPGというテレビの番組表のボタンを押すと1週間分出る。ただ、委員が言われたように、映る方々も期待して待っているような撮り方、回り方も必要になる。映った方も宣伝するという効果もある。そちらもスタッフがうまく宣伝できるよう指導したい。ありがたい意見だ。

■委員 最小限必要な警報は音声告知で聞けるとなると、加入率アップのためには内容の充実が大事だ。「恵那えーなビデオ」ができて期待している。宣伝が入ってくると見たい、あの人が出るから見たい、ということになる。それを行いながら番組を充実してほしい。そのために市民の声を聞く組織が必要だと思う。

■委員 同じものが幾日も流れている。東濃西部にはおりベネットワークがあり収支もいいが、恵那市の2万世帯切れるところで運営すると経費的にも小回りが利かない、何カ月前のものが流れるという状況だ。そこは広域的に考えてはどうか。24年度予算は2200万になっている。アミックスは自主運営するにしても世帯や収入が少ないという悪循環にならないか懸念している。ゆくゆくは広域的にやって日常の生活の部分放送して魅力あるものにしないとだめだ。古いものを流すようでは悪循環になる。

■委員 100%というのはどうかと思う。番組のもっていき方だと思う。保育園児が見たいから加入するという話も聞く。そういうものが増えればもっと加入が上がると思う。ピーアールしないといけなない。

■委員 アミックスコムが独自の自主的な番組を作ることはあるか。

■担当課 ホットインえなというのがアミックス独自のものだ。

■委員 恵那の事業取材して放映しているということか。大変少ない。それは、あくまでも自主的にやるということでは、アミックスは要らない費用をかける必要がないということ考えれば何もかまわない方がいい。市役所がニュースとして市民に知らせたいとい

う番組がいくつかあると思うが、そういったとき、全くそういったことに対しての役所からの要望はないのか。

■担当課 月に4本コミュニティー番組を行政放送という形で企画課から委託がある。それは、番組編成会議の中で月の予定を見ながら、市から依頼して作ってもらっている。ほっとインえなは、アミックスのスタッフがカメラを担いで2週間に1本、市で行ったお祭りや出来事等々を撮影して、ニュース番組的な形で作っている。

■委員 番組表を見たら、見たいと思う番組がない。私はもし見るとするならどこから持ってきたビデオを流している体操ぐらいだ。あとは消防の操法を見たが、それを毎週繰り返している。中津川市の操法も映していたが、市民のための放送局という意識があるのか。告知放送器の設置は100%近いが、テレビをみんなに見せようということは無理だと思う。あの番組の作り方では無理だ。どの程度のものをアミックスに伝えようとしているという意識なのか。アミックスの予算を見ながら、これ以上負担をかけてはだめだという思いでやるのか、あくまでも彼らの自主的な放送だけでいいという考えなのか。

■担当課 どのケーブルテレビを見ても、番組数、番組内容で劣っているのは認識している。指導不足だ。

■委員 そこまで自覚しながら100%を目指すというのは無理だし、市の取り組み方として違うと思う。アミックスにもっと責任を持たせていろいろな番組を撮らせることを考えるべき。アミックスに負担を強いているという声を聞いたことがあるが、今回黒字になる。いい番組を作ろうという意識がなければ、インターネット基盤が整備されている大井、長島地区にもっと普及させようというのは至難の業だ。どこまで彼らに責任を持たせるか、そのための市の声が彼らに伝わっているのか疑問だ。劣っているということを言われたが、そんなものを見せられて、それを市に負担させるということは問題だ。改善してほしい。

■委員 映像と音声は今、主流だ。よく分かる。お金がかかると思うが地域のニュースをすぐに流す体制ができないか。先日、TBSが撮影に来た。岐阜県の環境を撮影したが、どこへ流すか聞いたら関東だけだということだった。各テレビ会社は視聴者が何を見たいか、そういうことに気を使い、いかに見ってもらうかという姿勢が印象的だった。ということは、アミックスも、地域、恵那市、みんなに見せるニュースを流す努力が必要だ。もう一点、市が文化的な財産を文化課や広報などと連携を取って形に残していくようなことをやってほしい。放送内容の充実、担当課だけでなく、特に広報、文化課などでも対応して

ほしい。

■オブザーバー 情報系は技術の進歩も激しく、行政の役割をどう考えるかが難しい。インフラを行政がやって、ソフトは民間がやるという考え方もあるとは思いますが。ハードのインフラはほぼできている。今話があったように、面白い番組となるとお金がかかる。ソフト系に行政の支援を回すべきではないかという、漠然とした方向性が見えてきている。東京と群馬県でしか見られないが「東京MX」というチャンネルがある。非常に面白い。「5時に夢中」という番組があり、1時間番組だが、大手の放送会社ではあまりやらないような、放送禁止すれすれの用語も出てくるような番組で、すごく人気がある。民放なのでスポンサーがある。ほかの時間はできあいの番組を放送しているが、これは生放送で面白い。どうやったら恵那でそういうものができるかは、お金がかかると思うが、基本的には市の速報性、ローカルだけど面白いもの、それを見ることで恵那市の一体感、誇りのようなものが持てるようになればいいと思う。

■委員長 管理運営事業についての評価は、各委員の大半は上から順にC、B、B、Bとある。4分野ではこのような評価としたい。

改善提案では、恵那市としての市民の方向からして、市民のアミックスへの要望がない。ここに出ているように、アミックスの放送内容について、各委員が言ったことを把握して番組の構成をしていくということで、市民各層からの意見を聞く機会や、組織の設置、番組向上委員会といったようなものを、現在のアミックスが編集され放送されている内容を十分点検し、これは恵那市民が求めている内容の番組かどうか、意見集約し、放送を充実する。企業的な問題があるが、アミックスCOMの放映についての運営を、取材にかかわること、放送にかかわること、営業に関すること、少なくともそれぐらいの分野にチームワークを作りながら、向上委員会的なものが出てくる番組をどう作るかということだ。今は取材も放送も営業も兼業になっている。企業内容的にも、市民の意見とマッチしていけば加入率も増えるし営業もできる。前向きな転換を進めることが必要だ。市民各層からの意見を聞く機会として、組織の設置と、取材と放送と営業といったような、そのぐらいの分野を持った経営努力、企業努力をしていくことだ。さらにそういう視点で改善してほしい。

これでよろしいか。

[異 議 な し]

■委員長 それではそういう内容で進める。CATV管理運営事業の評価はこれで終わる。

<日本大正村施設整備事業>

■委員長 4つの評価や改善提案について、各委員からコメントを求める。

■委員 明智に行く機会が私もある。財団とかかわりのある方は一生懸命やっている。町の中にも財団と関係ない方は無関心であるようだ。市街地の方と一体となる対応をしてほしい。

■委員 ボランティアでよくやられているが、上の年代で組織を作りすぎた点があるのでは。もう少し若い人の意見をどんどん取り入れる態勢ができればもっと変わるものもある。それを取り入れなければ衰退していく。

■委員 あの施設で二度、三度と訪れるお客さんは多いのか。

■担当課 リピーターは多い。もてなしの心ということで、人間的なことで良かったということたびたび訪れる人がいるとは聞いている。施設よりもてなしの心で来ているということだ。

■委員 ボランティアを含めて一生懸命やっている結果だ。あの施設では、あの広い範囲があつてすべてを充実させることは無理だと感じる。もう一度行ってみたいという人は少ないだろうと思った。今回で3回行ったが、変わったことも感じられない。相変わらずすばらしいと感じることも少なかった。私の認識の程度の低さとも思うが。企画の数がだんだん減っている。考える必要がある。今回も広場を作って4千万円、5千万円ということだが、そういう投資がいいのか。

■担当課 大正村広場が今年の3月オープンした。駅前プラザも3月にオープンしてそこで5月におんさいまつりを行った。今後もその広場で集客し、大正路地を通過して施設に誘導するという目的もあり、その広場を整備した。

■委員 オープンしてから増えているのか。

■担当課 おんさいまつりの間の入り込み客は、例年より減っている。原因は分からないが、去年は大正百年のイベントをして増えたが、今年は一段落し、施設は整備したが減った。今後大正村の組織と協力しながら増えていくようにしたい。イベントをして、イベントに来た人が施設に来るようにしたい。

■委員 売店があったが、全部店が閉めてあった。すべてシャッターを下ろしていた。これはどういうことか尋ねたら、本来は毎日開いてもらう条件で店を借りてもらったが、客が来ないので撤退すると考えていると聞いた。

■担当課 広場を整備する前は駐車場があって、ロマン亭を出て左にテナントがあったが、施設を整備したことで、そこには車を停められないということで、民間の土地を借り、ロマン亭を出た右に店を開いた。その関係で、商店まで車が乗り入れられないので客が減ったとは聞いている。それについては影響があると思う。

■委員 観光客の減少ということでは、山岡では大正村の帰りのバスが寒天村に寄るので一日に何台もバスが来ていたが本当に最近減ってきたと感じる。大正村にかかわっている人とそうでない市民の温度差を感じる。市民のものにならないとだめじゃないか。観光地としての発展を考えると、広く意見を取り入れて取り組む必要がある。

■担当課 今年町内の方に施設を無料にして1日だけ案内するというのを初めてやろうとしている。

■委員 ボランティアのかたが掃除や館内など意欲的にやっている。これがずっと続いていくのか。年代が下がって、今の若い人は好きなことはやるが面倒なことはやらない。本当に無償で続いていくのか。そこを考えないと先が立ち行かなくなるかもしれない。

■委員 収支の内訳書の資料を見ると、寄付金の積み立てが3100万円ある。これは何か目的があるのか。

■担当課 3000万円は、バロー創設者の伊藤善美氏から大正村の施設に使ってほしいということで市に寄付があり、市から大正村に入れ大正村の人が寄付金積み立てをした。使途の細かいところまで把握していなかった。

■委員 有意義に使ってほしい。

■担当課 目的があってバロー創設者の伊藤善美氏が寄付されたものだ。

■委員 それならいい。私はたまたま明智に行ったら、若い人がコスプレで大正時代の格

好をして歩いていた。若い人が来る余地がある。それを受け入れる態勢として、若い人たちの教育が必要だと感じた。

■委員 名古屋から大正村に引越して、いろいろな会議にも出ている。地域と大正村の財団の皆さんとの意識の隔たりをよく感じる。全体的に考えると、皆さんが何をしているのか分かりにくい。外から入ってきた者に対して排他的なところも感じる。駐車場と広場の問題が出ていたが、体育委員の理事会でよく聞くのは、体育の事業をしようとしても中途半端な大きさなので使いにくい、車の利用ができない、広場のテナント料がお店は高いので昔からやっていた人がほかの地域に移っていたりするので問題だという意見。20代、30代では魅力を感じにくいものが多い。若い人の意見を聞いてほしい。無償のボランティアでは限界があると思う。対策を考えた方がいいと思う。

■委員 リピーターがいるのかという話があった。私は8月に行った。ああいうさびれた雰囲気がいいという人もある。8月に行ったときは駐車場に空きがなかった。年齢層も、家族連れというよりは子どもが大きくなって夫婦2人でという愛知ナンバーの人が多かった。昭和村、明治村、大正村の違いがよその人は分かりにくい。特に大正村は一番知名度が低い。明治村、昭和村、大正村というパンフレットがあったが、浸透していない。ボランティアでやると継続していかない。それも確かだと思う。

総事業費の内容、どういうところにお金が使われているか。保険、土地借上代、建物修繕費、委託金、印刷、広告、水道光熱費、これは大正村が持った方がいいのでは。大正村は事業費を何に使っているのか。水道光熱費も大正村が持つべきだと思う。この前のオリンピック展やトヨタ自動車、パナソニックなどに来てもらうという内容はいいが、やる気のなさを感じる。たとえば飲食店に入ると、「大正村」というとハヤシライスと思うのに1品だけしかない。オムライスにかければオムハヤシになる。それがざっとあったら良いのと思う。来た人にやる気のない感じが伝わる。大正村も努力が必要だ。この事業に関しては、大正村の経営状況が分からないが、払ってもらった方がいいと思った。

■委員 明智町の観光施設、明智町のまちづくりに生かせる施設という考えでいってほしい。地域の協議会があるので、その中で具体的に検討するといい知恵が出るし町民も盛り上げていこうということになる。観光客は、地元の人その気にならないとうまくいかない。もう一つは、連携ということ。恵那市内の観光施設と連携する。大正村へ寄って山岡のほかの施設へ行くような連携をすれば全体がよくなる。

■オブザーバー パンフレットがよくできている。合併前のパンフレットだ。合併後の恵

那市の市民全体の共通の資産になっていない。明智の財産であって恵那の財産になっていないというところに問題がある。当時は、全町挙げて企画をやり、ボランティアも一生懸命やっていた。そのときたくさんお客さんが来た。それからだんだん人がいなくなり合併後さらに問題意識がなくなった。百年祭はやったが、計算すると対前年比 15%プラスぐらいで、ちょっと持ち直したが、一時的なもので、カンフル剤の効果もなかった。皆さんの意見を聞いて思ったのは、基本的に魅力がない。かつては魅力があったんだと思う。アイデア的に言うと、市民に知ってもらうために、市民全体が無料で入れる日を作ったらいい。ディズニーランドでもやっている。浦安の市民はただになるところ。小学生は地域資源を知ってもらうために社会科の教材として強制的に見せたらどうか。この前テレビで、デパートで高級なお客さんだけをターゲットにして、忙しくてお金を持っている人を呼ぶために、逆にその近くに行って品揃えをし、その中から選んでもらうサービスが出てきた。かつて栄えたときにどういう客層だったかにこだわるのではなく、新しいターゲットを探して、そういうところに宣伝する。周りの観光地、市内でもいいし、温泉、恵那峡、道の駅でもいいので連携し、コースを考えて観光会社に売り込むことをやったらどうか。

企画をする人がかつてはいたと思うが今は振興事務所でもしていないと思う。個々の建物の企画はしても全体の企画をやるところがない。財団がやるのか市の企画部門がやるのかわからないが、そういうものを作り、大正村の活性化リフレッシュ計画を作ったらどうか。

■委員長 提言書のまとめに入る。公共性の評価は委員の大半の意見のCでよいと思う。公平性もBではなくC、この2点のまとめもC。有効性と効率性の評価はBが多いので、このままBである。改善提案の中に、旧明智町から引き継がれた日本大正村は恵那市の観光資源の一つとして積極的にピーアールされている、これはそうなんだが、恵那市における観光資源はいくつかある。そうしたものと連携してピーアールする。これは明智のみのピーアールではなく、恵那市の観光資源全体のピーアールの中に大正村があるという、連動した中で誘客を図るという文言を挿入したい。下から4行目、現在財団がかかわっている施設は10施設と聞いているが、今後の明智町の維持管理費、東海、東南海地震の問題がある場合、耐震補強など、今後維持管理費が多額になることが予想される。これは財団が観光資源をピーアールする中で増やすことによって整備できるものを仮定するということだろうが、現状そういう状況になっていないので、経費の予想についてどういうことをするのか、まず一つは財団法人大正村の努力は当然だが、その上で、無償のボランティアについては、今後の明智地域の大正村の住民とかかわる中で議論されていると思うが、財団の運び方の問題と、そこにかかわる町民の意識格差がある。これを早く若い世代に進めていくことが必要。今、地域自治区制度の地域協議会があるので、大正村を中心としたまち

づくりということなので、これは地域協議会の、振興事務所は当然、積極的に連携を深めるとのことだ。従って、地域協議会、それぞれの組織と連携する中で、住民の意識の改革を進めまちづくりをする。大正村は町全体を示しているわけで、明治村や昭和村はそのエリアに施設を特定の持っているもので、それと比べれば大正村は格式の高いものではないかと思う。住民の意識格差を解消するには、地域協議会、自治連合会との連携を深め、大正村へのあり方についての意識、魅力の引き出し方について協力をいただく。この2点を挿入し改善提案としたいがいかがか。

[異 議 な し]

■委員長 そのほかないか。なければ日本大正村施設整備事業の評価を終わる。

<食育の推進>

■委員長 各委員からコメントをもらう。その前に質問があれば出してほしい。

■委員 昔より子どものアトピーや偏食が懸念されている。24年度の予算を見ても140万円を19校に配られている補助金だ。わずかな経費が各学校に出ている。それだけで効果があるのか。昔からのばらまきのような処理なのか。効果があるならもう少し経費を出してアトピー、偏食などに対し、地場産業の育成からも食育をやったらどうか。

■委員 食育に口を出さなければならぬ意味が分からない。そこまでやってやらないといけないのか。

■委員 私も積極的にやるということがよく分からない。が、私の孫の場合は嫁が偏食が激しいということで叱っている。食育で改善されることがあるのだろうと理解している。

■委員 食育というのが分からなかったもので、食育推進というのをネットで検索したら、内閣府の食育基本法が出てきたので読んだ。第2章、食育推進基本計画等。市町村の食育推進計画。市町村は食育推進基本計画を作成するよう努めなければならない。それで、恵那市も作っているのかなと思って健康推進課に聞いたら作っていないということだった。作っていないところを教育委員会は学校で補ってくれていると私は受け取った。教育委員会に、各学校で作っている食に関する食育年間指導計画というのをファクスで送ってもらった。それを見ると、ちゃんと計画を立ててやっている。大井第二小学校では、肥満傾向児童、コレステロール値がどれだけ改善されたとか、1人で朝食を食べる子が何%になっ

たということが計画に詰め込まれている。なので、この事業に対して特に気になるところはなかった。

教育研究所事業計画を見たら、山岡で24年度文科省指定で、栄養教諭を中核とした食育推進計画という、栄養士が教員資格を取って学校で指導しているということか。

■担当課 栄養教諭とは、岐阜県はすべて栄養職員が栄養教諭の資格を取って、単独で教壇に立てるようになっている。

■委員 そういふところを見ると、食育基本法の学校・保育所等における食育の推進という項目をちゃんとやっているということだ。この事業に関してはどうこう言うことはない。が、食育基本法の前文に、基本理念を明らかにしてその方向性を示し、国、地方公共団体及び国民の食育の推進に関する取り組みを、総合的かつ計画的に推進するためこの法律を制定する、と書いてある。そのためにはやはり恵那市の食育推進計画があるといいと思った。

■委員 私は食に関心がある。食育は、公共性、公平性をとって大事だと思う。有効性もあると思うが、効率性については分からない。大正村ではマルコさんが味噌を使った食育や伝統料理を子どもたちに教えている。家庭が一番大事だと思うので、夏だけ小学生の学童保育で指導員をさせてもらったが、食事を摂ってない子が結構いた。食生活や食習慣の指導が大事だと思った。

■委員 市全体で方向性を決めるといいと漠然と思っていた。委員の言われる通りだと思う。そういう計画があると有効性がもっと高くなると思う。

■委員 食育というところがすごく幅が広い。体と心を育む基本になるものだ。各学校でやっている伝承の食文化や自然の恵み、勤労の尊さを学ぶということで、恵那市の食育推進事業計画書を見ると、各学校がそれぞれ本当に真剣に取り組んでいる。野菜を作ったり調理をしたり栄養士の話を聞いたり。子どもにも生活習慣病が増えていたり栄養が足りなかったり問題がある。学校ごとに計画を立てている。各小学校、中学校ともよくやっている。食べることに限らず、地域の人のお話を聞いたりということを通していろいろなことが身に付く。いいことだと思う。

■委員 食育は学校教育課で担当し金額は150万円。食育というのは、そもそも、日本の食が乱れているということはいろいろなことが影響している。一番は医療費だ。それから、

社会で若い人が極端に考えなくなっている。国はそれがいけないということを言っている。その前に、健康日本 21 といのがある。そういうことで、総合的には、食育はある一つの課がやるのではなく、市の各課で取り組むべき。特に健康の部門が中心になってやるべき。関連部署と連携して行うことが特に必要である。学校教育だけでなくまちづくり全部でやるという考え方でいい。

もともと、食の安全ということでは、身近なのは放射能。前には農薬などの汚染の問題。作ることから始まり食べること。食を問題にしていろいろな問題が扱える。学校教育課だけでなくすべてかかわるように考えるべきだ。

■オブザーバー 薬食同源、医食同源という言葉がある。中国人は食事そのものが薬であり、そのいい食事をすることが病気を治すことだという知恵があった。日本にもそういうことがあった。私は東京でボランティアでパン作りをやっている。売りに行くと、お母さん方が、これは牛乳、バター、卵が入っているかと聞く。それはアレルギーの原因だからだ。アレルギーが多いことを実感する。

この事業の恩恵を受けるのは誰かと前に聞いたら小学校、中学校の児童生徒で、4460 人いる。この事業費 147 万円を割ると 330 円。ちょうど 1 食分ぐらいのお金で食育が本当にできるならいい事業だ。ただ本当に効果があるのかどうか。こんな安いお金ではかえって効果がないのではという話もある。こんなに安くて効果があるならいいことだ。

■委員長 各事業の評価をして分かることは、恵那市の縦割りで、横の連携がないことだ。まず、公共性、公平性が、B、Aだ。正当性のまとめがAもしくはB。これについてはAとしたいがいいか。

[異 議 な し]

■委員長 有効性と効率性。予算措置などで、指摘されたように、基本となる推進計画がない中でどこまで到達しているのかということでは、もう一歩だ。これは両方Bだと思いがいかがか。

[異 議 な し]

■委員長 改善提案が記してあるが、国としては基本計画を作るべきであるということだが当市ではそこにいたっていない。計画を作ることと、関係各課が連携することが大事だ。もう一つは、児童生徒の福祉医療の助成は担当課が児童生徒の定期診断についての健康内容はデータがなくて分からないということだ。が、学校側は、毎年定期的に行われる子どもたちの健診について、全体的、部分的にも、健診の結果で、恵那市の子どもがどうい

健康状態なのか、それに基づいていかないと、絵に書いた餅ではいけない。問題は恵那市の子どもの健康状態は、定期健診のデータからどういう状況なのかという視点を持ちながら食育をしないといけないということを挿入したい。それで有効性、効率性は、そういうことを前提として努力してほしいということでBとしたいがよろしいか。

改善提案に食育推進計画をきちんと作り、そのために関係各課が連携を図りながら努力する。特定健診、定期健診に基づく恵那市の子どもの健康状況を把握しつつ食育にあたっていくという2点を付け加えたい。よろしいか。

<サンホールくしはら自主事業、管理運営経費>

■委員長 続いてサンホールくしはら自主事業、管理運営経費に入る。コメントを求める。

■委員 サンホールくしはら自主事業の事務事業成果表にある、費用便益費の支払い意思額が100円で設定されている。今年の映画の内容がカンフーパンダというディズニー映画だと聞いた。この映画は市内のレンタルビデオ店では旧作扱いで7泊8日100円だったが、こういう場所で見るとき100円なのか。映画館で見ると小学生1000円、大人1800円。ちょっと市民の意識と違う気がする。300円とか500円ぐらいではないか。100円という設定がよく分からなかった。

将来、リニア開通を見越して、温泉、空き家、サンホールくしはら等を活用した健康づくりを目指した里方向のまちづくりを目指したらどうかという意見があった。おっしゃる通りで、恵那市過疎地域自立促進計画書がある。観光のところで、串原は温泉施設や大船山周辺の観光整備という事業が並んでおり、その中にサンホールくしはらが全く載っていない。恵那市として、観光として考えていないというのもあるし、事業として収益性のない、利用も少ないということで、公共性、公平性、有効性、効率性がC評価かと思った。

■委員 視察で施設を見て、設備は立派だが有効活用ができていない感じがした。廃止を考えてもいいが、廃止にしても経費がかかる。今まで利用している人がいる。あの設備を何とか生かせるといいと思う。

■委員 このまま存続は難しいと思う。大井町に住んでいるが、大井町からすると同じ恵那市でも串原は別の所に来たような、楽しい感覚もある。廃止にするしかないかと思うが、全市的な資産としてうまく利用できるよう考えていることも大事だと思う。

■委員 自主事業が年1回でそれも難しいということで有効活用されていない。地元で話し合いをしながら、やっぱり廃止ということだと思う。

■委員 過疎になっている地域は大変だと思う。作る時は簡単にできたと思う。その後活用ができていない。廃止するのは一番簡単だが、何とか有効利用できないか。それには、他の地域から、私は都市住民と知っているが、そういう人たちが利用してくれるような手段、手当てをするべきだと思う。

■委員 この建物の施設は合併前の串原の住民が選択して建てたことだろうと思う。使っても使わなくても500万円以上の金が消えていく。行革審でも並行して審議してもらおう施設だと思う。

■委員 すごくいい施設でもったいないと思うが、やっぱり維持は無理だと思う。年間500万。文化課としてはあれをどのようにしようかという案は持っているのか。

■担当課 自主事業を3つから1つにしたりとリストラ的なことはやっているが、場所的に、串原にあるということで、恵那の人口の中心ではないので、集客が難しい。皆様方の言われるようなところで考えていかなければと思っている。

■委員 よその地域からと言われても難しい場所だ。だからそういう方向に向かっていくと思うが、もったいない。

■委員 これを評価するのは難しい。もったいない。あれだけ立派な建物は近くにあったら活用できるが遠くにあるだけに、ぜひ大井や長島の人に来てくださいというのはやりにくいと思う。残念ながらという方向に行かざるを得ない。予算的に1360万円使うということか。

■担当課 昨年度決算で維持管理500万円ちょっとだ。

■委員 総事業費トータルで1356万9千円ではないのか。

■担当課 それは事務経費に担当者の人件費をお金に換算した場合も含まれている。

■委員 人件費を使うことすらもったいない。あれだけ立派なものを廃止して、壊すという話は考えにくい。でも実際には仕方ないという結論になってしまう。串原の人にとっては耐えられないという思いがあるだろう。串原にはたくさんいろいろなものがある。公民

館もある。振興事務所もある。ささゆりの湯も問題を抱えている。人口減少が激しいところだ。それを含めて考えたとき、有効利用なんか考えられない。では廃止と言い切っているのか。評価はCに違いないが、そう言い切っているのかどうか。

■オブザーバー いい建物だと思った。多目的ホールは一時はやったが、客席を収納して、天井が高いので体育館にも使える。体操などもできる。いいホールだ。もう一つ、類似施設がないかということ。公民館の中にかかなりの人が入る場所がある。費用便益費が平成23年0.12。1との差、 $1-0.12=0.88$ が税金の持ち出しになっている。

もっと利用率が上がらないか。稼働率が、運営経費の資料にある。平成19年33、20年以下、16、17となっている。これを見て、客観的なデータから見ても稼働率が低くて税金の無効な投入がされている。稼働率が上げられないか考えてみた。今はコミュニティーの結束や地域の伝統文化の継承に使われている。仮にあの施設にこっちの人があそこまで行くのも無理だし、地域の結束を市の中心部でやることも無理がある。民間企業の保養施設とか、学校、幼稚園にも使ってもらおうとか、若い人がジャズダンスをしたり、年寄り健康づくり体操にも非常にいい場所だ。さらに、周りにささゆりの湯、ゴルフ場、キャンプ場があるので連携してはと考えたが、多分、かなり努力してもだめだろう。一つの目途として、稼働率を考えて、私は八王子市の仕事を手伝ったとき、稼働率が5割切ると厳しく、3割切るとレッドカードになる。3割のところはどんどん廃止した。3割を目標にすると、21年度は3割を超えているが、21年度以降3割を切っている。来年で5年目になる。これが続いたらやめるときかと思う。

■委員長 恵那市は対等合併した。それに伴い地域自治条例に基づく地域自治制度がある。ただ、その組織がなかなか機能していない。特にサンホールくしはらは、できたとときと現状で地域住民の認識はどうなのか。公共性は、各委員の表現からみてC。正当性もC。有効性、効率性はそのままでもいい。ただ、改善提案で、内容を含めながら、地域では拠点施設であることや、むしろその拠点施設が現状どうなっているか理解を深めつつ、地域でどうするかという問題提起を当委員会にはしていくべきだ。こういう現状の難しさが表現されているが、最後に、単に施設を廃止するというのではなく、ささゆりの湯も検討課題であり、周辺施設も含めて、将来展望を考える中では、医療の部分が足りないが、温泉活用と体育館のサンホールくしはら、マレットゴルフ場、周辺キャンプ場を総体的に活用した健康づくりの里ということに基づくまちづくりの里とするよう、地域に委員会として求めていきたい。併せて、能登半島のなんとかいう町に俳優の仲代達矢さんが舞台を毎年定期公演している。舞台と舞台の裏が自然のままです。そういう例がある。地域の人だけの活用だけでなく、そういうところに適した催し物、呼び込みの問題、同時に、串

原は、市の外からいろいろな多くの若い人が、山林や農業のことで移住している人気のある地域だ。そこの連携をどうするか。文化施設だけでみれば廃止だが、地域づくり、その施設の活用、複合的な施設をどう活用した位置付けにするか、企画部のかかわりになる。こういう市の事柄を、関係各課が、少なくとも今後どうするか、行政の中でもプロジェクトチームを作り専門的にいろいろな角度から、地域の人も交えて考えていくべき。そういうことを委員会としても指摘しながら、廃止ではなく改善という表現にしたい。

■委員 そういう受け止め方を市がしてくれるかどうかだ。少なくとも、企画課を含めて、「それは私たちも十分考えましょう」という返事をしてくれればと思うが。

■委員長 全体の意見を聞くということと、ささゆりの湯一つを取っても、多くはないが雇用があることが重要視されている。施設も利用されているが、串原の皆様方がこれがこのままいつまでもあるという前提でいるのか、ゆくゆくは大変になるということでまちづくりを考えているのか。せつかく評価するなら、地域にも問題提起するということがいいのではないかと思う。廃止ではなく、そういう括弧書きの部分を含めた改善とする。

■委員 委員長にそれだけの思い入れがあれば我々も賛成する。

■委員長 ということで、「廃止」を削除し、括弧書きの部分重視しながら「改善」とする。公共性はC、従ってこの項の評価はC。有効性、効率性は同じくC。改善提案は文言挿入をし、最後は括弧書きの部分重視しながら「改善」とする。

<NPO支援・育成事業>

■委員長 引き続き、NPO支援・育成事業の評価に入る。各委員の意見を願います。

■委員 担当する課が事業の効果が上がるよう。絶えず事業を精査しながら市民に広く有効に金が活用できるよう検討してほしい。

■委員 支援をすればいろいろ知恵を出してもらえるだろう。NPO団体が無くなるころもあると思うが、今後も支援をお願いします。

■委員 いろいろなところでチェックをしながら補助制度を有効に活用させ、団体を育てていただきたい。

■委員 活動団体が一步踏み出すきっかけの支援は大切であるが、いつまでも補助をしていくのはダメだと思う。広く皆が活用できるよう進めていただきたい。

■委員 NPOが継続的に活動できるような事業を続けていくといいと思う。

■委員 NPOは行政で届かないサービスを補っている。必要とされている方もいらっしゃる。これからも支援されて継続されていくことが良いと思う。補助金が適正に使われているか随時チェックされたほうがよい。

■委員 お金がもらえればそれだけでいいというのではなく、補助金の使われ方の追跡調査が必要。二つ気になることがある。一つはお金の分配の仕方。恵那市も、審査員がいて希望額に応じてどう支払うか考えているが、税金で支払うので、市民が投票するとか。一宮市に市民活動支援制度というのがある。市民が応援したい団体に投票するというもの。支援したい団体を選択した市民の数に「市民1人当たりの支援額」をかけたものが、団体への支援額となる。「市民1人当たりの支援額」は個人市民税額の1%を18歳以上の人口で割った金額とし、今年度は607円と出ている。前年、一宮市で実際に投票した人は1割。18歳以上の人口31万7,185人で約3万4,000人が投票している。恵那市でやると難しいかなと思う。市民が投票して選ぶということで分かっていいと思う。二つ目は支払われた補助金がどのように使われているか行政としてしっかり把握し、NPOの事業の面倒を見るわけではなく、申請した事業に関しては、それがうまくいったか、なぜうまくいかなかったか、把握した方がいい。

■委員長 補助金の使われ方、統一性、公平性の問題があるかと思う。きちんとした把握をしているかどうか質問があった。担当課で回答を願う。

■担当課 補助金の使われ方については、中間報告と最後に年度末に実績の発表の機会がある。一宮市のような形は検討する必要がある。

■委員 NPO法人を経験した立場から言う。もともとは任意団体、早くNPOにした方がいいということでやった。活動するには資金が必要である。補助金は一つの方法であるが、情報を提供しバックアップするのも一つの支援である。もう一つは補助金を出すのではなく貸す制度も必要。資金を使ったらお礼をつけて返し、また資金が必要なら使い、お礼をつけて返すという永久的なシステムをつくるのが理想である。

■オブザーバー 補助金の支出について3年間のサンセット方式でやっているのも良いと思う。情報は欲しいので情報交換の場は必要。

■委員長 評価の確認をする。委員の意見が割れているところであるが、公平性の評価A、正当性評価のまとめもA、効率性の評価もAとすることで異議は無いかな。

[異 議 な し]

■委員長 支援手法について委員から一宮市の例なども紹介された。地域協議会でも13地域のまちづくりの交付金の課題、NPOとの関わりや連携を深めながら進めていくことが必要となってくる。バックアップ体制についても行政と連携することが大切であると認識する。改善提案については原案のままでよいか。

[異 議 な し]

<放送運営事業>

■委員長 続いて放送運営事業に移る。評価についてコメントを求める。

■委員 市の情報をケーブルテレビで流すという事業である。ケーブルテレビではなくネットの方がよいかも。タブレット端末や電子回覧板というものもある。評価作業をするという生活の便利さを取り上げられるイメージがあるが、評価委員会の提案で便利なものを取り入れるのも良いのではないかな。串原では隣家、地域が離れている。タブレット端末をお年寄りが見る事で安否確認ができる。買い物のデマンドバスや地域の公民館を端末で予約するという便利なものだ。こういうのを普及するとういと思った。

■委員 市の情報を的確に伝えるということで、公共性や公平性は重要である。より情報を的確にもてるよう市民のニーズを常時把握されることが必要。

■委員 私も公共性、公平性はあると思う。放送の内容を充実し、速報性のあるものを心がけていただきたい。

■委員 特に災害時の情報の提供をお願いしたい。

■委員 CATV事業と混同する。改善提案の原案に市民や行政が協働してとあるが、ま

ずは画像と音声での確な提供をお願いします。

■委員 魅力のある番組にすればCATVの加入率も向上する。質問するが、アミックスについて、株主である市とアミックスは絶えず話し合いをやっているか。市民の声を聞いて編集するとか、毎日ローカルニュースを流すならスタッフと金もいると思うがどのような状況か。

■担当課 放送の内容は、市民の声を聞いて編集・番組を決めていることを今はしていない。番組の決め方は月2回の編集会議を行い、例えば文化センターで行った講演会を放送して欲しいという担当課の要望で流している。アミックス側で市民の委員会があることは聞いている。株主總會の内容については分からない。

■委員 4割が未加入なのでCATVに魅力ある内容が必要。来れない人のために講演会の放送とかでは視聴率は上がらない。その日のタイムリーなニュースを流すと良い。ひと月前と同じ内容の番組を放送している。今の状態では魅力がない。

■委員 CATV事業の防災情報課の内容と、放送運営事業の企画課広報の内容と何が違うのか。

■担当課 CATV事業はハードの部分。そもそもは行政情報の提供について防災行政無線を音声告知器として各世帯に引き込み、市の情報を広報以外で提供することをケーブルテレビとしてセットで導入した。放送運営業務は広報の紙面以外で市の情報を提供する一つの手段として「えなっコチャンネル」という番組の中で放送している。この番組をもっと充実させていきたい。まだ設備投資の赤字の部分がある。これから多分黒字化していくと思う。今は汚い画像だがこれをデジタル化し、きれいな画像にしていくといった基盤整備をしていく。アミックスが自主番組として自分で放送できる基盤ができていないので今は行政で予算を持って放送しているが、ベースに乗ったときにはアミックスが自主番組として行うべきものだと考えている。

■委員 今は番組の内容について指示しているか。

■担当課 市の番組として提供しているのは年間46本。その制作についてのコミュニケーションはとっている。

■委員 紙で伝えられないところをケーブルテレビに乗せて放送するということなので市の意見もよく入れて進めていただきたい。

■委員 C A T V管理運営事業との差がどこにあるか。わざわざ2つの担当課でやるほどとは思わない。

■担当課 ご指摘のとおりと思う。先ほどのNPO支援・育成事業の補助金と同じで、アミックスが自主的に自立できるまでの支援と考えている。

■委員 最初に評価したC A T V管理運営事業と重なった部分がある。1つの課で担当すれば十分である。無駄な課ではないか。

■担当課 セクション的な話をして申し訳ないが、広報としての発信者は企画課広報の分野として業務をしている。

■委員 2つの課でいろいろ言い合うより1つの課で十分と考える。

■オブザーバー ハードを防災情報課、中身を企画課で担当して行っていると理解した。防災情報課に「情報」がついているから情報のコンテンツについて口が出せるということで委員が問題にされたと思う。その辺が混乱のもとではないか。486時間の放送について企画課が関わっている。この部分について指導をして内容を充実していければ良いと思う。市民の意見を聞く一つの方法としてモニタリングによる視聴率の把握をしてはどうか。それに基づいてアミックスをお願いすることも良い。

■委員長 さまざまな意見をいただいた。評価をまとめる。公共性の評価については現状はCではないか。公平性はA、正当性評価のまとめとして公共性自体は高いという意見が多くありAという評価ではないかと思うが良いか。

[異 議 な し]

■委員長 効率性評価については、委員からの多数の意見はBである。Bでよいか。

[異 議 な し]

■委員長 改善提案について、ケーブルテレビについては市民によるモニタリングも必要である。また市民各層からの番組向上委員会的なものを模索することも必要と思う。したがって改善提案に市民によるモニター制度などの文言を入れていただきたい。今後の展開方向については、改善とするがカッコ書きに、ケーブルテレビ運営事業と放送運営事業の事業統合とそれに関わる担当課の明確化を図ることと記載していただきたい。防災情報課は防災に関わることを集中的に行い、企画課はケーブルテレビと連動した情報の全体に関わる部分について関わる方が良いのではないかと。事業の統合化を図り、それぞれどこが何を持つか明確化を図ることだ。

■委員 どうしても必要性を感じない。

■担当課 広報情報を提供するという事で企画課が関わっている。内部で整理をさせていただく。

■委員長 情報の提供が文字から映像に置き換わったということだ。現在運営されている民間のケーブルテレビに市の情報を提供する。これからケーブルテレビを使って映像面で情報を伝達することが中心になってくるだろうし、市民もその方が素直に見る。参考になるか分からないが、恵那市の取り組みは弱いと感ずることがある。三重県伊賀市のケーブルテレビの事業主は一定の契約金額で全部市から委託を受けて放送している。さらにケーブルテレビの問題点を自費で細かく分析している。議会の予算、決算委員会も放送している。恵那市は本会議を録画で放送しているが古い情報が放映されている。やはり議会は当日のものを放送することが重要、速報性が大切である。つまり事業としては一体化したものとし、その番組に関わる担当課はそれぞれで責任をもって関わっていくことだ。類似した2つの事業に3千万円で行っていると委員からの指摘があった。したがって、ケーブルテレビ運営事業と放送運営事業の統合を図ると同時に担当する分野を明確にされることを提起する。

■委員 議会でも何でも放送する機会を増やし、加入率を上げるために積極的に頑張ってもらいたいということだ。

■委員長 放送を通じて市民に知らせるべき情報はそれぞれの課で責任を持ち、事業については一本化して改善をしていただきたい。

■オブザーバー 蛇足であるが、山梨県河口湖がある富士吉田市では富士山のリアルタイ

ムの映像を流している。こちらも恵那峡や恵那山を流すようなアイデアがあっても良い。

■委員 議会はテレビで流す意思を持った。市民も見る必要がある。そういう意味で頑張
ってやっていただきたい。

■委員長 この12事業を評価する中で感じた事は、小さな市の中であっても横の連携がな
されていない。いくつかの事業でこのような提案をしている。放送を中心とした情報伝達
をする分野の事業についても放送する手段は一体化し、それぞれの放送の内容については
各担当が責任を明確にして放送にあたっていくということを委員会として改善の提案とし
ていきたい。その部分を含めて改善のことがらを記載していただきたい。

4 評価委員会提言書について

■委員長 これでようやく12事業全体が済んだ。委員長から語りたいことがある。昨年度
はまとめの委員会をさらに一回持ったが、今回は皆さん忙しい方ばかりなので、今日まで
の評価を事務局でまとめ郵送でお送りさせていただく。その内容にさらに修正や追加した
いことがあればファックスか手紙で折り返しいただいた上で、事務局がさらに修正を行う。
そういう進め方でお認めいただきたいがよいか。

[異 議 な し]

■委員長 それではその内容については、正副委員長と事務局で点検し、確認させていた
だく。そして提言書の提出については、市長の都合により10月19日しか空いていないと
いうことなので、この日に提言することとしたい。時間は午後4時30分に市長室で行いた
い。各委員からも感想などをお話していただきたい。

5 その他

■委員長 その他、何かあるか。

■事務局 次回日程も委員長に進めていただきましたので、その他はありません。

■副委員長 今日後半6事業、充実した内容で評価できた。評価委員会をやって私が思っ
た事は、各課が自分の事業の成果を上げるには何か工夫をしないといけない。それは他の
課と連携することは欠くことはできない。総合という活動をどこかの場面で取り入れてい
ていただきたい。もう一点は、市民評価委員会は行政の担当者と相対して行ったが、私の理想

は担当する人と一緒に考えていくことが良いと思った。それでは、第6回市民評価委員会を終了する。ご苦労様でした。

[閉 会]